

平成25年度 第1回愛知県生涯学習審議会会議録

1 開催期日

平成25年8月23日（金）14時から15時38分まで

2 場 所

愛知県議会議事堂ラウンジ

3 出席した委員の氏名 14名

足立誠、大島伸一、加来正晴、木本文平、志村貴子、須崎かん、鈴木照美、津浦純子、服部重昭、広沢憲治、牧野秀泰、松田武雄、山田久子、吉川佳代

4 欠席した委員の氏名 4名

小川明子、恩田やす恵、林寛子、和田典之

5 会議に付した事項

議 題

- (1) 平成25年度愛知県生涯学習推進計画事業について
- (2) 生涯学習に関わる各主体に期待される役割を実現するための具体的な施策（案）について
- (3) 計画期間における調査審議事項（案）について
- (4) その他

6 会議の経過

- 会議録署名人の指名
会長から津浦委員と広沢委員を署名人に指名
- 平成25年度愛知県生涯学習推進計画事業について
事務局から説明、各委員からの意見は別紙のとおり
- 生涯学習に関わる各主体に期待される役割を実現するための具体的な施策（案）について
事務局から説明、各委員からの意見は別紙のとおり
- 計画期間における調査審議事項（案）について
事務局から説明
- その他

【平成25年度愛知県生涯学習推進計画事業について（資料1）】

〈各委員の意見要旨〉

- 4番目の職業的自立を高める生涯学習で、高校生、専門学校生を対象とするイベントが出ているが、この運営についてはどうなっているのか。
- あいちトリエンナーレ事業について、長寿社会を豊かに生きる生涯学習に位置付けられている。当日の入場料について、高齢者に対する特例のようなものはあるのか。
- 5番目の「公民館を核とした社会教育活性化支援事業」だが、これは文部科学省のモデル事業か。
- 限られた予算の中でESDをテーマとして、公民館において事業を行うのは非常に良いことである。以前のCOP10の時はかなり宣伝があって、人々にもその認識が広まっていたようであるが、今回はあまり宣伝がなく、来年に世界会議があるという雰囲気ではないように感じる。岡山はたいへん盛り上がっているが、こちらはそうでもないように感じる。
- ESD世界会議について、規模としてはどれくらいになるのか。

〈事務局の発言要旨〉

- 大会の運営については、実行委員会担当校の先生方や代表の生徒が運営にあっている。
- 当日の入場料に関する特例について、小中学生はもともと無料で、高校生についても学校行事で参加する場合には無償ということをトリエンナーレ事務局に働きかけたが、高齢者については、特にそのような働きかけは行っていない。
- 文部科学省の今年度の事業で、3市からぜひやってみたいと、手が挙げたものを本課でとりまとめたものである。
- 環境部がESD支援室を設けて取り組んでいるが、教育委員会としてもESDを広く浸透させていくために、ユネスコスクールへの加盟を促している。
- 閣僚、政府関係者を含めて数千人規模の参加を予定している。

【生涯学習に関わる各主体に期待される役割を実現するための具体的な施策（案）について（資料2）】

〈各委員の意見要旨〉

- 資料における今後の取組の方向性という最後の段落について、主語はすべて「県」ということか。
- 県の部分で「学びネットあいち」が出ているが、この「学びネットあいち」はいろいろなことが検索できるシステムである。しかし、提供しているコンテンツはVHSのままのものがああり、今後デジタル化していくと思われるが、予算は大丈夫なのか。
- 子育てネットワーカーが、なかなか活動の場を得られないという状況において、これを地域の方で解決していくということは、県の関与はなくなるということか。
- 研修に参加して終わりではなく、地域に戻って地域の人々と、あるいは子供会、長寿会などほかの団体やNPOと協働して、もう一つ上の段階で地域を活性化していくというような知識を得られる場があるとよい。研修を受けて終わりではなく、その上で何か活動できる場があればありがたい。
- 具体的にアウトカムにおいて何を求めるのかということをも明快に出して、そのためにどういう人材が必要なのか、求めるものが実現できたかどうかということの評価の対象にすべきである。
- 学校の部分で、今後の取組の方向性に記載されている地域コーディネーターというのはどのようなイメージのものか。
- 人材の養成は必要であるが、地域の課題は地域で解決するという一方で、例えば地域の課題を解決するためにこういう人材を養成したい、しかし自分たちの地域でそれだけの能力がないという時に、県の方でそうした人材育成のための支援をしてくれるのか。
- 県で養成したコーディネーターが、地域に戻った時に、どれくらい活動できるかというのはいろいろと難しい問題である。
- 地域が主体であるという方向性、あるいは各現場が問題点を一番よく分かっているという発言は重要である。
- それぞれの地域において、課題をはっきりと出し、それを県がコーディネートしていく、橋渡しの役割をしていく、場合によっては相談に乗っていくというようなイメージで考えていけばよい。
- 公民館は設置数がどんどん減っており、その状況はかなり厳しいが、地域の絆づくりを始めとして、公民館が地域において非常に大きな役割を果たすということは事実である。
- 地域の活性化の中心的な役割を果たす公民館の職員、あるいは市町村の社会教育主事等の職員に対して、県が大学等高等教育機関と連携して、その力量形成を図っていくことは重要であるので、ぜひ積極的に推進していただきたい。

- 県美術館や陶磁美術館は、生涯学習関連施設として、専門性の高い活動をかなり行っている。
- 地域コーディネーターの養成や研修など、どういう形で、どうやって、どういうストーリーでやっていくのか、そして、どのようにこれから繋がっていくのかということが、あまりよくイメージできない。
- 資料2のタイトルが「具体的な施策」となっているが、中身を見ると、方向性は出ているが、その方向性を実際の現場に下ろす具体的なものが必要かという印象を持った。
- 人材の育成という話が盛んに出ていたが、人材の発掘ということも必要である。現役世代はとても忙しいが、企業OBというのは収入よりも働き甲斐、やりがい、社会貢献の方に意識が変わってきており、そういう方々を上手に活用していくのがよい。
- ソフト・ハードの面で私立学校も地域に大いに貢献している。
- 企業の部分で、企業に対する生涯学習への働きかけということでは、ワーク・ライフ・バランスへの取組が非常に重要である。ワーク・ライフ・バランスのイベントに合わせて、生涯学習の宣伝を組み込んでアピールする余地があるのではないか。
- 具体的に何を成果目標にして、どのように考えていけばよいのか、人材についても画一的に養成することは難しいのではないかと、もう少し具体的なイメージをどうやって作っていくのか、次回に向けて、方向性の中に具体性をどのように盛り込んでいくのか、これが今回の会議の結論的なものではないか。

〈事務局の発言要旨〉

- 主語はすべて「県」である。
- 予算については、今までも要求してきたが、なかなか更新ということに対して厳しい状況にある。しかし、このシステム更新ができるように頑張っていきたい。
- これからの方向性として、研修を積まれた方に対して、スキルアップのための研修を行い、リーダーの養成を行っていきたい。また、子育てネットワーカーが各市町村で行政と連携をとりながら活動している先進的な取組の事例をとりまとめて、事例集にして各市町村に紹介していきたい。
- 子供会など他の団体と連携を図って、埋もれている人を引っ張っていけるような資質を学ぶ、あるいは「新しい公」や地域の絆、つながりの大切さを学んで、他の団体を引っ張っていけるというような、そんなリーダー養成を図っていきたい。
- 地域コーディネーターは、様々な学校の要望を把握して、それらの要望に対応できるような人材と学校とを取り持つようなイメージである。
- 県として、まず市町村の生涯学習に関わっている方、あるいは公民館などで講座の開設や地域の課題の把握に努め、地域の最前線で活動している方などに対して、大学等と連携しながら、資質向上を図るための研修を行っていきたい。

- 研修を通して、市町村において核となる人材を育てていくことにより、県の職員が手を出すのではなく、研修を積むことにより、市町村職員がそうしたことをできるよう、その資質向上を図っていきたい。
- 市町村のサイドで地域をリードできる核となる人材は必要であると考えている。また、地域における人材養成も必要であり、公サイドの人材養成と地域における人材養成と、その両方を進めていく必要がある。

【計画期間における調査審議事項（案）について（資料3）】

意見等なし